

第4学年 道徳指導案

日 時 平成23年9月30日(金) 5校時
児 童 男子11名 女子12名 計23名
指導者 内 田 浩 昭

- 1 主題名 助け合う友達 [2-(3) 助け合い]
- 2 資料名 ぼくらだってオーケストラ (東京書籍 どうとく 4 ゆたかな心で)
- 3 主題について

(1) 価値について

小学校学習指導要領第3章道徳の第3学年及び第4学年の内容2「主として他の人とのかかわりに関する事」の(3)に「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」とある。これは低学年の「友達と仲よくし、助け合う」及び高学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う」と深くかかわっている。同性あるいは異性においてもお互いをよく理解し、信頼し、助け合っていこうと主体的に行動する児童を育てようとする内容項目である。

友情とは、互いが誠意をもってかかわる中から生じるものである。お互いが相手のために思い行動することで確かな信頼関係が生まれ、友情を深めていくことができると考えられる。「仲がよい」という友達関係に留まることなく、助け合い、学び合っていく関係を作ることが大切である。

この時期の児童は、気の合う友達同士で仲間を作って自分達の世界を確保し、楽しもうとする傾向がある。そのため、誰とでも仲よくしなければならぬということは分かっているが、自分の利害に基づく衝突も強くなる。

そこで、本主題をもとに、友情の大切さを理解するとともに、友達のよいところを認めながら、助け合い、励まし合おうとする心情を育てていくことが大切であると考えた。

(2) 児童について

学級の児童は、明るく素直な態度で学校生活を送っている。4年生になり、『より高く』を学年テーマとして掲げ、今ある自分よりも高まった自分をめあてに立て、これまで学習や行事、係活動など積極的に取り組んでいる。

日常生活では友達に対して、自分の意見や考えをはっきり話せる児童が多い。また、困っている友達に優しく声をかけたり、仲よくしようとしたりする姿も見られる。しかし、それが独りよがりであったり素直に友達の意見を聞くことができず、自己中心的な態度になってしまったりする場面も見られる。

同じ価値を扱った1時間目は、一緒に喜んでくれる友達のよさや、友達を大切にしようとすることは大切だと考えられたが、そのような経験を話せる児童は少なかった。

そこで、このような児童に、友達を理解し、相手の成長を願って助け合うことの大切さを実感させることが大切であると考えた。さらに、友達を思う気持ちだけでなく、友達の思いに応えることの大切さにも気付かせる必要がある。そのためには、相互のかかわりを理解させていきたい。そして信頼し合い、学び合って、助け合う友達関係を築いていこうとする態度を養っていきたい。

(3) 資料について

4年生が市の連合音楽会に参加することになる。楽器の苦手なてつおは、リコーダーの担当になる。上手に吹けないてつおに、なつみが親切に教える。そのことに抵抗があるてつおは、知らんぷりをしたりするが、いつの間になつみの心がわかるようになるという内容である。本資料を通して、お互いを理解し、信頼し合うことの大切さに気付かせていくことの出来る資料である。また、男女の友情の大切さについての指導にも適した資料である。

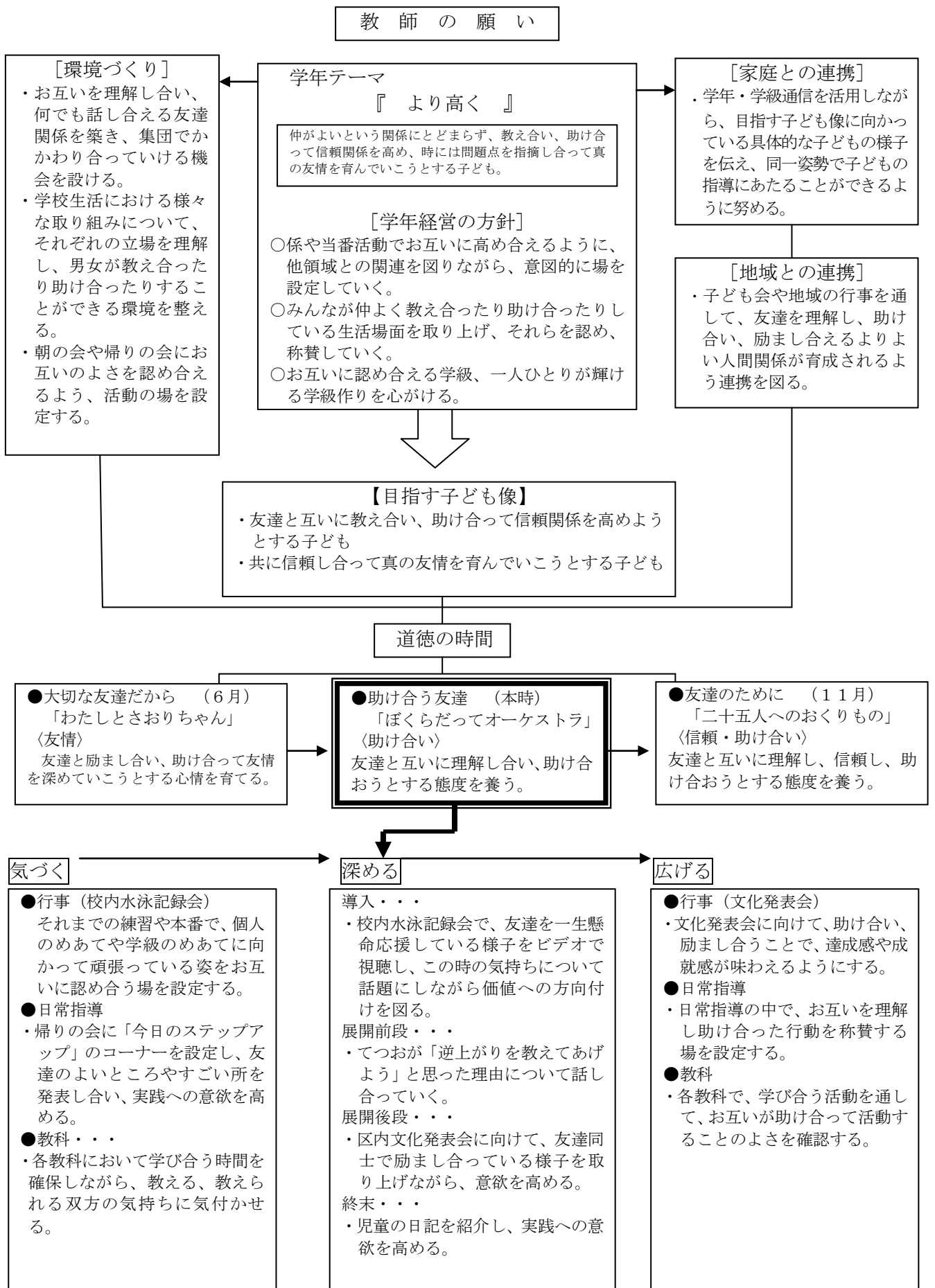
(4) 指導について

本時の授業では、お互いを理解し、助け合うことが自分の成長の糧になることに気付いていくてつおの気持ちに着目させ、自分のこれまでの生活経験と重ね合わせながら、ねらいにかかわる価値について考えていけるよう、次の手立てを講じていく。

- ・ 導入の段階では、校内水泳記録会の映像を用い、学級のみんなを応援する児童の様子を紹介することで、ねらいとする価値への方向付けを図りたい。
- ・ 書く活動を取り入れ、なつみに対して、今度は逆上ガリを教えてあげようと考えたてつおの気持ちを書かせることにより、価値の内面化を図っていきたい。
- ・ 書く活動の後、ペア学習を取り入れ、児童全員に自分の思いや考えを表現する機会を確保する。また、お互いの考えを交流することで、自分の思いを伝えたり、友達の考えに触れたりしながら多様な考えがあることに気付かせたい。
- ・ 展開後段では、自分達が参加する区内文化発表会の練習の中で、友人を励ましている児童を取り上げ、その時の思いを広げ、実践への意欲を高めていきたい。

4 指導の構想

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う心」を育てる学年における指導の構想



5 本時の指導

(1) ねらい

友達と互いに理解し合い、助け合おうとする態度を養う。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点
導入 4分	<p>1 校内水泳記録会の経験について発表する。</p> <p>○どんな気持ちで友達を応援していましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2組に負けないように。 ・必死に泳いでいる友達に頑張っ て欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内水泳記録会で、友達を一生懸命応援している様子を見て、その時の気持ちを発表させることで本時のねらいとする価値への方向付けを図る。
展開 前段	<p>2 資料を読んで内容を確認する。</p> <p>○てつおの気持ちを考えながら読み ましょう。</p> <p>3 主人公の気持ちについて考える。</p> <p>○目の前が真っ暗になったてつおは どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○「右手の小指、あなが半分あいてい る」となつみに言われた時、てつお はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○なつみのアドバイスをもとに練習 を続けるてつおは、どんな気持ちだ ったでしょう。</p> <p>・「ドレミをふってあげようか。」と言 われた時のてつおの気持ち</p> <p>・「はじめはゆうっくり、それをくり かえすの。」と言われた時のてつお の気持ち</p> <p>・「そうそう、その調子。」と言われた 時のてつおの気持ち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いやだ。連合音楽会に出たくない。 ・リコーダーはやりたくない。 ・決まったから仕方ない。 ・練習するしかない。 ・いちいちうるさいな。 ・ちょっとくらい上手いからって うるさいな。 ・自分は逆上がりができないくせ に。 ・押さえれば、ちゃんと吹けるの かな。 ・そんなこといいよ。 ・言われなくても分かっている よ。 ・たしかめながらふいたらできる ぞ。 ・なんだか、うれしいな。 ・やればできるかな。 ・そうすれば、できるんだ。 ・今までよりもできるようになっ てきたぞ。 ・もう少しだ ・これなら、だいじょうぶだ。 ・なつみのおかげだな。 ・なつみのはげましがうれしい な。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の範読を聞くことによ り、内容を確認させる。 ・楽器が苦手なてつおの落胆 する気持ちを自分の経験と かかわらせながら共感させ たい。 ・なつみのアドバイスを素直 に聞くことができないてつ おの気持ちに共感させる。 ・なつみの教えてくれたこと をだんだん受け入れてきて いる、てつおの気持ちを想 像させる。

34分	<p>◎自分のことのように喜ぶなつみを見て、てつおはどんなことを思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみの言った通りにやるとうまくできた。 ・ありがとう。 ・なつみのおかげだよ。 ・初めに知らんぷりしてごめん。 ・お礼をしなくちゃいけない。 ・自分のことじゃないのに喜んでくれてうれしいな。 ・今度は教えてくれたら素直に聞くから。 ・今度は僕が逆上がりを教えてあげるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れ、自分の考えを深めさせることで、価値の内面化を図っていきたい。また、その後ペア学習をさせることで、自分の思いを伝えたり、友達の考えのよさにふれさせたりしながら多様な考えがあることに気付かせたい。
展開後段 4分	<p>4 これまでの生活を振り返り、「助け合い」について話し合う ○これから区内文化発表会を成功させるために、友達とどんな気持ちで練習していこうと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な子に教えていきたい。 ・声の小さい子に大きな声で歌えるコツを教えてあげたい。 ・アドバイスされたら素直に聞きたい。 ・みんなと協力して頑張ろう。 ・友達と力を合わせて頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と互いに理解し合い、助け合って行動しようとする価値にかかわって、これからの自分を見つめさせる。 ・文化発表会の取り組みについて振り返り、発表させる。
終末 3分	<p>5 児童の日記を紹介する。 6 学習の振り返りをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力していたことや、友達のよいところを見つけながら活動していた様子を聞く。

ぼくらだつてオーケストラ

水泳記録会
の写真

がんばれ!! 応援してるよ。

れんごう音楽会に出場
楽器のえんそうは苦手
リコーダー担当になった。

目の前が真っ暗に

いやだ。出たくない
どうすればいいんだ。
しかたない、練習するか。

右手の小指、あなが半分あいている。

- ・うるさいな。
- ・よけいなお世話。
- ・さか上がりもできないくせに
- ・無視しよう。

挿絵

挿絵

気になる

なつみのアドバイスを聞きながら練習を続ける

挿絵

- ・なんかできるようになってきたぞ。
- ・うまく吹けるとうれしいな。
- ・教えてもらった通りにやるとできるんだな
- ・なつみが教えてくれるから頑張ろう。

あつ! ふけた。できた、ぼく!

挿絵

「うわあ、すごい、てつお君! すごいよ!」

- ・ありがとう。
- ・なつみのおかげだよ。
- ・自分のことじゃないのに喜んでくれてうれしいな。
- ・お礼をしなくちゃいけない。
- ・今度は僕が逆上がりを教えてあげるよ。

◎友達・・・助け合える仲間

6 資料分析

資料名 ぼくらだってオーケストラ
 (出典：東京書籍 どうとく 4 ゆたかな心で)

[ねらい] 友達と互いに理解し合い、助け合おうとする態度を養う。

